



さくらちょうしょう

桜町小だより

「緑と笑顔がいっぱい桜町小」

児童数 335名

令和5年12月1日(金)



達成感・充実感

校長 小川 哲

体育館脇のナナカマドが色づき始めたと思ったら、あっという間に紅く彩られ、「緑と笑顔がいっぱいの桜町小」が落ち葉いっぱいの季節になってまいりました。

11月11日(土)学校公開・音楽会・学校運営協議会を実施いたしました。600名を超える方々が来校され、子供たちの学校での様子や本校の雰囲気を感じていただきました。音楽会の取組では、自分の希望する楽器を演奏できた子もいればそうでない子もいました。それでも、自分の中で折り合いをつけて、みんなで音やリズムを合わせていきました。歌や音だっではじめからうまく出せたわけではありません。そんな中で「かしこく なかよく たくましく」の力を養っていきました。おうちの方の励ましも力になったことでしょう。そして、当日、ドキドキ、ワクワクしながら相手を意識して、今できる精一杯の合唱や合奏、音楽劇で自分たちが奏でる音楽を届けました。会場の皆様からいただいた温かい拍手がこれからの子供たちと教員の大きな力になります。これからもうまくいかないこと、思い通りにできないことがあると思いますが、今回味わった「達成感」「充実感」を楽しみに、一つ一つ乗り越えたり、消化したりして成長して行ってほしいと思います。本当にありがとうございました。

今年も残すところあと一ヶ月となりました。これまでがんばってきた「達成感」「充実感」を振り返って、新しい年を迎えたいと思います。保護者、地域の皆様、引き続き本校の教育活動にご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

子供が成長できる「経験」と「体験」

教頭 高野 浩

「子供の頃の体験は、その後の人生に影響する。」この言葉は、ある研修会に参加した際に指導者の先生が言われた言葉です。現在の子供たちに必要な言葉かもしれないなと、痛感しました。

子供たちは、毎日様々な経験で得た体験を積み重ねて生活しています。そこには、楽しいことだけでなく、我慢することや逃げたくなることもあるでしょう。自分一人で解決できないこともあるかもしれません。時には、友達、家族が協力して解決していくこともあるでしょう。いずれにしろ、その経験と体験で得たことが、その子の成長に大きな影響を与えることになることでしょう。

新聞である高学年2人の児童が経験と体験で得たことから自分の思いと考えを表現している作文を読みました。どちらも、自分が直に「体験」し、そこから考えた知識や判断を次の新しい行動に「経験」という力に変えて活かしていこうという内容でした。その作文からは、「体験」と「経験」が大きな「人間力」になるのだなと感じられ、2人の児童の「生きる力」を強く感じました。

日々、子供たちは悩み、考え、迷いながら生活しています。でも、経験と体験の一つ一つがその子の成長に必要なことだと考えれば、周りの大人の接し方や声のかけ方も変えることも必要かと思えます。様々な経験と体験で、子供だけでなく大人も成長できるのかもかもしれません。

保護者の皆さん、学校も協力をしていきます。一緒に、がんばりましょう。

<先日、保護者の方からお聞きした言葉です。>

「大人が笑顔でいると、自然と子供も笑顔になりますね。」